



「やさい350gのマーチ」を踊る子供ら（ときわ湖水ホールで）

初の未来フェスタに8000人 古着、廃油の持参に「エコハ」交付



バルーンショーで、イチゴの風船をもらう女の子（ときわ湖水ホールで）

楽しく子育て・健康・環境

子育て、健康づくり、環境の取り組みを合体させた宇部市の新しいイベント「子どもとつなぐエコと健康―こきけん未来フェスタ」が7日、常盤公園で開催された。家族連れを中心に約8000人（主催者発表）が来場。ステージや各種ブース、ニュースポーツ、文化体験など、盛りだくさんのコーナーを回って、楽しい一日を過ごした。同実行委員会（松橋美恵子委員長）主催。

従来のエコフェアや「特長を生かしながら、健康フェスティバルの」公園一帯で老若男女が

参加できる催しを企画した。メイン会場はときわ湖水ホール周辺。屋内のステージで行われた、みんなで踊ろう「やさい350gのマーチ」では、大学院幼児園の年長児28人と食生活改善推進員、宇部フロンティア大の学生が、元気に食育推進ダンスを披露。ちよるる、チョーコクン、よねちゃん、はなっこりんなどのキャラクターも加

わって、場を盛り上げた。コミカルバルーンショーでは、観客が小ささまざまな風船を使ったパフォーマンスに夢中になった。フラダンスやヒップホップの体験、市母子保健推進協議会によるファミリーコンサート、エコビンゴ大会もあった。屋内外の出展ブースでは、5年後の自分や家族にメッセージを送る「5きけん未来レター」、牛乳パックを材料にした帽子作り、子供の救急豆知識、地産食材を使った飲食店、電気自動車（公用車）などが人気を集めた。パスへのお絵描き、おもしろ自転車の試乗などもあった。同日から市の環境地域通貨「エコハ」の交付が始まり、廃食油や古着などを持参した人が早速、紙券を手に入っていた。

ときわミュージアム本館では子供服と絵本のリニューアルフェア、野外彫刻展示場ではスポーツチャレンジャー、ときわレストハウスでは抹茶・琴・尺八などの文化体験、桜山ではネイチャーゲームが行われた。（松原）